

# お客様様 明け

## 元気通信



### 乙巳年 謹んで新年のお慶びを申し上げます。

お客さま、新年を迎え、お健やかに過ごしてはいかがでしょうか？ 旧年中は元気通信をご笑読いただき、誠にありがとうございました。本年もまたよろしくお願い申し上げます。

さて、昨年十二月五日、我が国の「伝統的酒造り」がユネスコ無形文化遺産（人類の無形文化遺産の代表的な一覧表への登録）が決定しました！

日本の風土に根付いた発酵文化が世界に認知されたことは大変悦ばしく、またここに至るまで関わった皆様のご苦労は並みならぬものだったかと存じます。誠におめでとうございました。ありがたいことに私も登録記念セレモニーとその後の祝賀会へ参加させていただきましたが、皆さんは喜びの中にも「ここからがスタートだ」と口々に言われており、まさにその通りだと思いました。

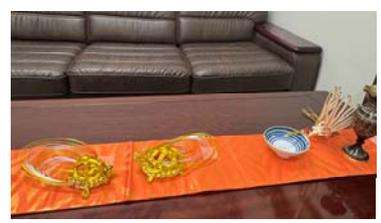
今回の登録は「杜氏・蔵人等が、こうじ菌を用い、日本各地の気候風土に合わせて、経験に基づき築き上げてきた、伝統的な酒造り技術（日本酒、焼酎、泡盛等）」に対するもので、はるか千年以上の昔から始まったといわれる、こうじを用いた酒造りが連綿と現代に続いていることと自体が凄いことだと畏敬の念を覚えます。これは偏に先人たちが積み重ねてきた努力と工夫、酒造りへの情熱、そして挑戦し続け、後進に受け継いできたからこそであり、これから先も酒造りの基本に則り、時代に即した技術を駆使し挑みつづけ、次代に引き継いでいかなければなりません。まさに「伝統は日々の研鑽と挑戦の積み重ね」なのだと思います。そしてこれは設備を提供している私たちも同じことが言えます。

日本は世界に類を見ない、長寿企業が多く存在する国として世界からも注目をされています。なぜこれほど長寿企業が多いのか。それは、長寿企業のほとんどがファミリービジネスであること、経営者が株主だけでなく従業員、お客様、そして地域社会など多様なステークホルダーをみていること、そして時代に応じてしなやかに変化をしながら発展していることが挙げられています。これから益々変化の激しい時代になっていくと思いますが、しなやかに、変化を恐れず進んで行くことが一層求められるでしょう。

\*\*\*\*\*  
昨年元日から能登半島を中心とした地震や宮崎県日向灘の地震だけでなく、比較的大きな地震がそこかしこで発生し、大小合わせ過去5年を大きく上回る回数だったそうです。

また地震に限らず豪雨による災害も発生しており、私自身も元日の大揺れに遭い、あらためて身を守るための日頃の備えの重要性を考えさせられました。活動期に入ったと言われている地震は人間の力ではどうしようもないことではありますが、出来得る限りの対策はしておかなければならないと思います。

そして、世界情勢も不穏な空気がなお色濃く漂っています。以前にも書きましたが、人が立ち入ってはならないところにも踏み込んできているように思えます。人間の傲慢とも思える振る舞いは、やがては自分たちのところに返ってきます。そうなる前に踏みとどまらなければならぬ、そんなふう強く感じる昨今です。



弊社応接室のお正月飾り 祝鶴亀

# 今、はまっていることは？」

## ■【1年の過ごし方】

生産部 係長 竹内 政人

ペットはいなく、はまっていることもないので、1年をどのように過ごしているかを書いてみようと思います。

私は、サッカー観戦と競馬観戦を通し1年間があっというまに過ぎていきます。サッカー観戦についてですが、地元が新潟なので、アルビレックス新潟の観戦に行きます。

最寄りの駅からスタジアムまで、徒歩で50分程かかりますが、歩いて行くこともあります。この間に四季を堪能できます。春はスタジアム周りの桜、夏は湖と夕日と山のコラボ(他サポーターさんも写真をけっこう撮られています)。秋は紅葉。冬は白鳥か雪。とサッカーが序盤に進むにつれ1年を感じています。春と夏はおすすめです。観戦終了後、居酒屋に直行し食を楽しみます。夏の新潟の枝豆はおいしいので、ぜひみなさんに食べて頂きたいです。

また、今年の新潟は3大タイトルのうちのルヴァンカップ決勝に進む事ができ、初の国立競技場まで応援に行く事ができ、充実したサッカーライフを送れました。

後は、J1に残留できることを祈るのみです。(これを書いている時は、最終節が残っている段階です)。

競馬観戦については、G1という格の高いレースがあります。この時期ですと「有馬記念」というビックレースがあります。皆さんも聞いた事があるのではないかと思います。このレースが始まると今年も終わりと感じてしまいますが、来年は心機一転がんばって勝とうと思っています。



今月の社内フラワーアレンジメント Atsuko



## ■【日曜日の大河ドラマ鑑賞】

生産部 設計 渡辺 俊文



私が今、はまっていることは大河ドラマです。

小さい頃から歴史が好きだったこともあり、幼い頃は家族で日曜日に大河ドラマを鑑賞するのが習慣でした。しかし、次第にドラマに対する興味が薄れ、休日の予定が増えたりすると、足が遠のくようになりました。

それが変わったのは、今は亡き祖母の看病のために家にいる時間が増えたときでした。当時放映していた『青天を衝け』で題材となった渋沢栄一の、「実業家から見た明治維新」といった視点が面白く、気付けば看病の傍ら、ストーリーを追っていました。次の年の『鎌倉殿の13人』も、リアリティある展開や心理描写に惹かれ、毎週家族と視聴するのが楽しみになりました。

そして去年放送された、紫式部の半生を描いた『光る君へ』。紫式部が「源氏物語」をなぜ書くようになったかに至るまでの背景に引き込まれ、今までの大河とはまた違う魅力を感じました。アートワークも素敵で、時にはまるで黒澤映画のような映像美で演出されるときもあり、思わず息をのむ時もあります。

ちなみに、作品内では平安時代の人々がお酒を嗜んでいる場面が度々描かれています。当時の主流はにがり酒。その為なのか、役者の方々は白濁したお酒を飲んでおり、仕事との繋がりを感じると感慨深くなることもあります(実際の撮影で飲んでいたのはカルピスだそうです)。

さて、今年の大河は江戸時代中期の出版業界人だった蔦屋重三郎を描く『べらぼう』。数多の浮世絵作品を世に送り、江戸文化の発展に貢献した人物だそうです。そんな今年の大河がどんなドラマになるか、はたまたどのような日本酒が作品内で登場してくるのか、非常に楽しみです。

## 親を連れて2泊3日の旅・・・疲れた！

島貫 修一



朝8時出発。11月初旬の東北道は霧で走行注意。母の兄弟姉妹は男4人女2人だが長男次男三男は既に他界し、残っているのは母・妹・末の弟だけ。3人共平均寿命を越えた今でも元気で介護も要らない。とは言っても1年後2年後はどうなるか判らないから、福島市に住んでいる母を連れて久しぶりに（母にとっては）群馬県に住む妹と、新潟市に住む弟と父方の姪（私から見れば従妹）を訪ねることにした。高速道路で時計回りに一周する旅になる。

福島西ICから東北道に入り岩船JCTから北関東道に、更に高崎JCTから関越道を走って月夜野ICで降りる。しばらく県道を走りベオシア月夜野店の近くで狭い町道に入る。前回訪れた時はバイクだったから道幅は気にしなかったが、今回は「対向車が来ませんように」と苦しい時の神頼みしながら運転して無事に妹夫婦宅に着いた。12時15分到着。

4人で昼食を食べながらのおしゃべりの話題は近況報告と健康と60年前70年前（大昔だ）の思い出話し。姉妹のおしゃべりを傍らで聞いていたら、母が20代初め頃に見合いの話が数件来たが、祖父（母の父）が「給料が安い」と言って断ったそうだ。男の価値は今も昔も変わらないようだ。

午後3時半。リンゴとさつま芋を土産に貰い妹夫婦宅を出発。R17で猿ヶ京温泉を目指し、4時過ぎに旅館に着いた。途中の道路脇に猿が2匹いた。旅館の建物は古いけど、ノスタルジックでどこか懐かしさを感じさせるデザイン。部屋で着替えたらすぐに風呂に直行。他の宿泊客が来る前に一人で浴槽を独占してきた。

夕食は地元の食材を使った料理で調理・味付けに工夫があり、美味しかったし満腹になった。汁物が「うどん」で刺身が蒟蒻だったのも上州を感じた。

第2日は9時に猿ヶ京温泉を出発し、R17で三国峠を越えて新潟県に入る。秋晴れで紅葉もきれいだし交通量の少ない峠道をすいすい走った。でも・・・時折すれ違うバイクを横目で見ながら「バイクだったらもっと楽しいだろうな」と思いながら。湯沢ICからは関越道で日本海までの長い坂を下る。長岡JCTで北陸道と合流して晩秋の越後平野を走り、昼12時ちょうどに新潟西ICを降りて、その10分後に姪夫婦宅に到着。

母が姪と会うのは20年ぶりくらいで、ここでも昼食を食べながらの話題は近況報告と健康と思い出話し。姪（従妹）と私は5歳違いで彼女が小6で私が小1の時に、山形県長井市の祖母の実家でいっしょに夏休みを過ごした事もあるから、私も思い出話しに加わる事ができた。

午後2時半、「へぎ蕎麦」を土産に貰い姪夫婦宅を出発。新潟市から弥彦温泉まではR116と県道のナビ推奨ルートではなく、日本海沿いのR402を選んだ。断崖絶壁の荒々しい風景を母は「弥彦山の裏側は初めて見た」

と驚いていた。大河津分水から弥彦山を左回りに回り4時に弥彦温泉着。弥彦神社の菊祭りで温泉街は大混雑していた。

旅館の建物は新しくエレベーターもあった。前日同様に部屋で着替えたら風呂に直行。浴室は定員3名かなと思うくらいで浴槽も小さいが、手足を伸ばして温めの湯にゆっくり浸かってきた。夕食は日本海の海の幸と肉料理・野菜料理で、その中でも食用菊は母の好物。新潟市では当たり前の秋の食材だが福島市では見かけない。

第3日は8時半に弥彦温泉を出発し、県道とR116で9時半に弟夫婦宅に到着。県道では白鳥が低空飛行で目の前を横切って行った。前日の姪夫婦宅もそうだが、どちらも郊外の区画整理された住宅地の中にあり、周囲の家々はよく似ている。だからいつも同じ方角から同じ道を通って行かないとたどり着けない。この角を右に曲がって突き当りの左側の家というふうには。家は十数年前にリフォームされてリビングはフローリングで対面式キッチン。リフォーム前の和室と台所しか知らない母には初めて見るものばかり。三日連続の思い出話しに花が咲いた。

11時半にコシヒカリを土産に貰って弟夫婦宅を出発。母が昔からの新潟の「あっさり味の醤油ラーメン」を食べたいと言うので、新津ICへ行く途中のラーメン店で煮干し醤油ラーメンを注文。私自身は背油入り見附ブラックラーメンが大好きで、煮干し醤油ラーメンは子供の頃に食べたラーメンの味に近いと感じた。母も私も新潟生まれだから身体が味を覚えている。

新津ICから磐越道に入り猪苗代ICで降りる。猪苗代町のスーパーで夕食用のお惣菜を買い、R115で峠越えて3時半に実家に着いた。郡山JCT経由で東北道を走り福島西ICで降りるのと比べても、10分程度長いだけで高速料金を節約できる。峠道の運転に自信のある人にお勧めルート。ただし冬は吹雪の凍結路だから要経験（冬の間山岳道路運転の）。

全走行距離 785km、燃費は 20km/L

あ～疲れた。親連れの旅はいつも疲れる。海外旅行経験の無い両親を台湾に連れて行った時は添乗員みたいなもので、旅を楽しむ余裕も無かった。姪の結婚式出席で長崎市に連れて行った時も、「子の心、老いた親知らず」という感じで振り回された。それでも、群馬で迎えに出た叔母に母が「もう二度と会えないと思っていた」と言ったのを聞いた時に、やっぱり連れてきて良かったと思った。

### スペイン語中間報告

ローマ字は英語を基に作られているので、スペイン語で読んでみると想像を超える読みになってしまう。アナウンサーの純子さんは Junko フンコ、漫才の花子さんは Hanako アナコ、豊臣秀吉は Toyotomi Hideyoshi トジョトミ イデジョシ、銀座は Ginza ヒンサ、代々木駅は La Estacion de Yoyogi ラ エスタシオン デ ジョジョヒ。